

2026年卒の採用広報が3月1日に解禁された。企業の採用意欲が引き続き旺盛な中、学生たちはどのように活動を進めているのだろうか。キャリタス就活・学生モニターを対象に、解禁直後の就職活動状況や意識について調査を行った。

1. 3月1日時点のエントリー状況

- 一人あたりのエントリー社数の平均は19.5社。前年同期(21.2社)より1.7社減
- 今後の予定社数の平均は8.3社。前年同期調査(9.5社)をやや下回る
- 新たな企業を探す手段は「就職情報サイト」が最多(89.9%)。次いで「合同説明会」

2. 会社説明会の参加状況

- 参加社数の平均は、オンライン形式11.4社、会場型4.6社
- 参加したい説明会は、「社員と話せる」「選考情報が得られる」などが上位

3. 解禁時の志望業界

- 1位「情報処理・ソフトウェア」、2位「インターネットサービス」。文系は「銀行」が1位

4. 選考試験の受験状況

- ES提出者は8割(81.4%)、面接試験受験者は7割強(76.1%)で、前年と同水準
- ES提出社数は平均6.9社。面接は平均4.4社、最終面接は1.6社

5. 3月1日現在の内定状況(※)

- 内定率は47.7%。前年同期実績(43.2%)を4.5ポイント上回る
- 内定企業の7割(71.9%)が「インターンシップ等(※)参加企業」
- 内定取得者のうち、就職先を決定し活動を終了したのは22.4%(モニター全体の10.7%)

6. 就職活動を終了したい時期

- 選考解禁後の「6月後半」に終了したい学生が多い。ただし理系は「3月後半」が最多

7. 希望する初任給額

- 初任給の重視度合いが上昇。過半数が初任給の額によって企業への関心や志望度に変化
- 最低限必要な額は平均23.3万円、好条件・魅力的だと感じる金額は平均28.1万円
それぞれ前年調査より1万円以上高くなった

※「インターンシップ」に限定せず、オープン・カンパニー等も含めて尋ねた
※「内定」には、内々定を含む

調査概要

調査対象：2026年3月に卒業予定の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生含む）
回答者数：1,105人（文系男子225人、文系女子488人、理系男子234人、理系女子158人）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2025年3月1日～6日
サンプリング：キャリタス就活 学生モニター2026
調査実施：株式会社キャリタス/キャリタスリサーチ

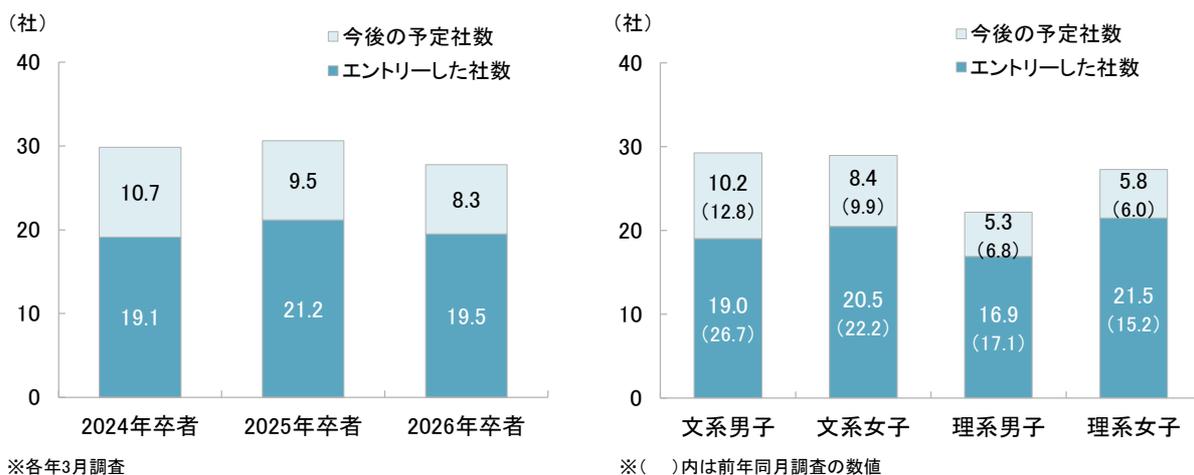
1. 3月1日時点のエントリー状況

3月1日時点でエントリーした社数と、今後の予定社数を尋ねた。

一人あたりのエントリー社数の平均は19.5社で、前年同期実績(21.2社)を1.7社下回った。今後のエントリー予定社数も平均8.3社と、前年調査(9.5社)より1.2社少ない。早い時期に接点を持った企業の選考が進んでいることで(6ページ)、新しい企業に関心が向きづらくなっているのだろう。

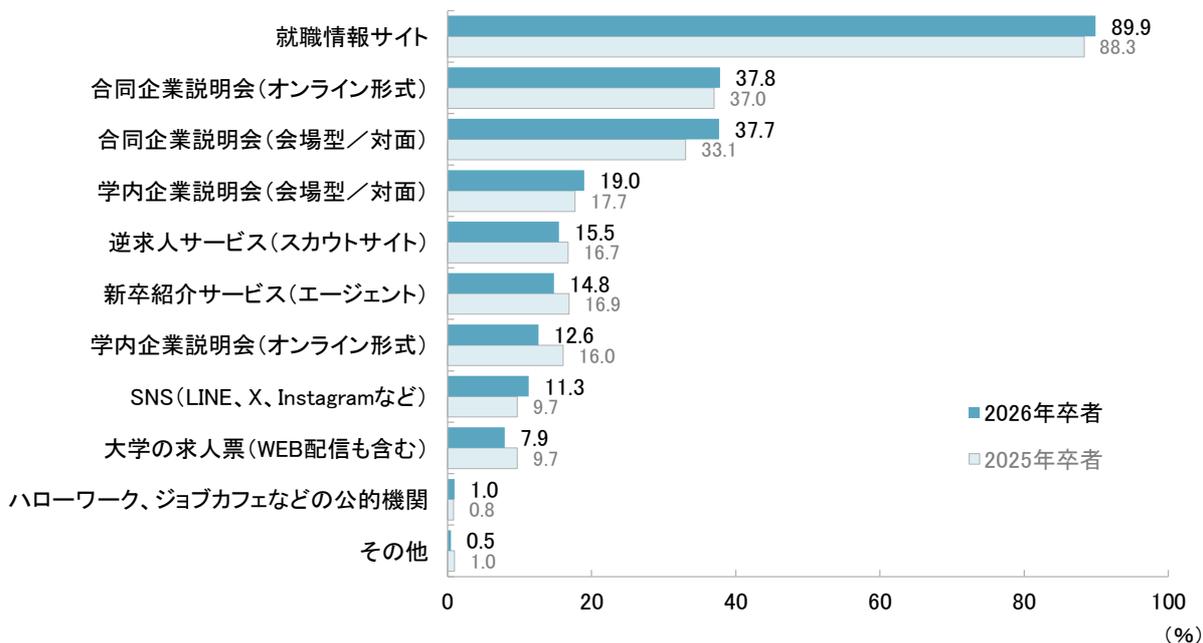
エントリー社数を文理男女別に確認すると、文系は男女とも約20社。今後の予定者数を足し合わせると約30社になる見込み。理系男子は他の属性に比べ少なく、企業を絞る傾向が見られる。

<エントリー社数>



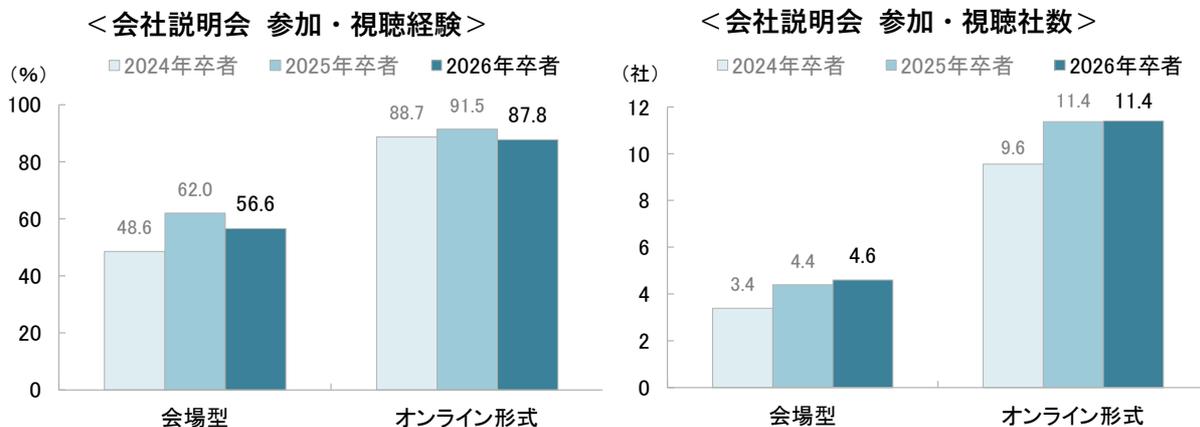
今後新たな企業にエントリーを予定している学生に、どのような手段(ツール)で企業を探しているのかを尋ねた。最も多いのは「就職情報サイト」で、約9割が企業探しに活用したいと回答した(89.9%)。次いで、「合同企業説明会」が3割台で続く。「合同企業説明会(会場型/対面)」については前年よりもポイントが増加し(33.1→37.7%)、実際に足を運んで企業を探したい学生が増えた様子が見える。

<新たな企業を探す手段>



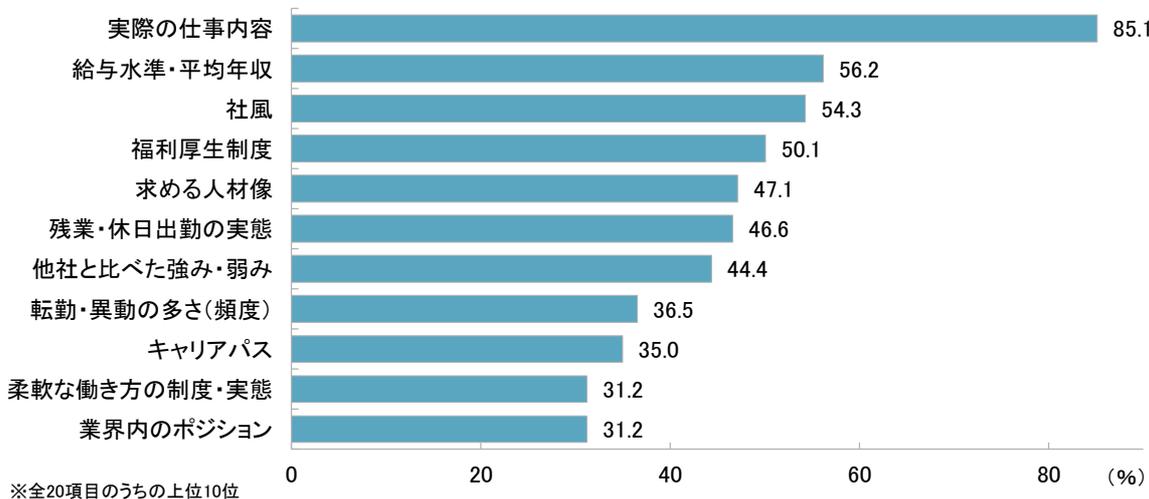
2. 会社説明会の参加状況

会社説明会（個別企業のセミナー）の参加状況を、開催形式ごとに確認した。「会場型」は全体の5割超（56.6%）、「オンライン形式（WEBセミナー）」は9割近く（87.8%）が参加経験を持つ。社数を見ると、会場型が平均4.6社で、オンライン形式は平均11.4社。オンラインが主流。



企業研究を進める上で知りたい情報を尋ねた。最も多いのは「実際の仕事内容」で、8割以上（85.1%）が選び、ポイントが集中している。次いで「給与水準・平均年収」が5割超で続く（56.2%）。他にも「福利厚生制度」「残業・休日出勤の実態」など条件に関する項目が上位に挙げられた。仕事内容だけでなく、条件面もしっかり確認したい学生が多いことが見て取れる。

<企業研究を行う上で知りたい情報>



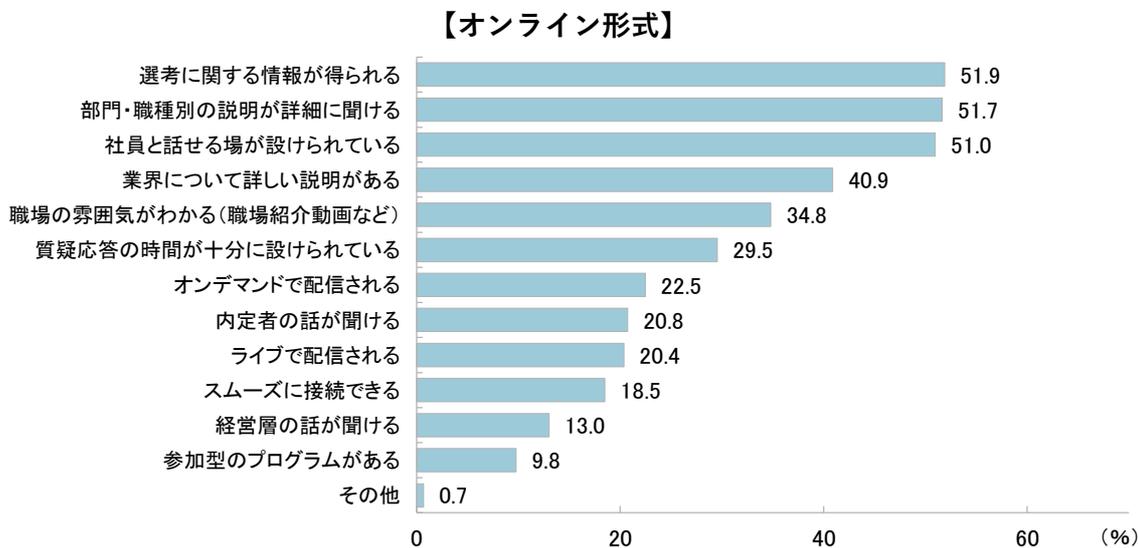
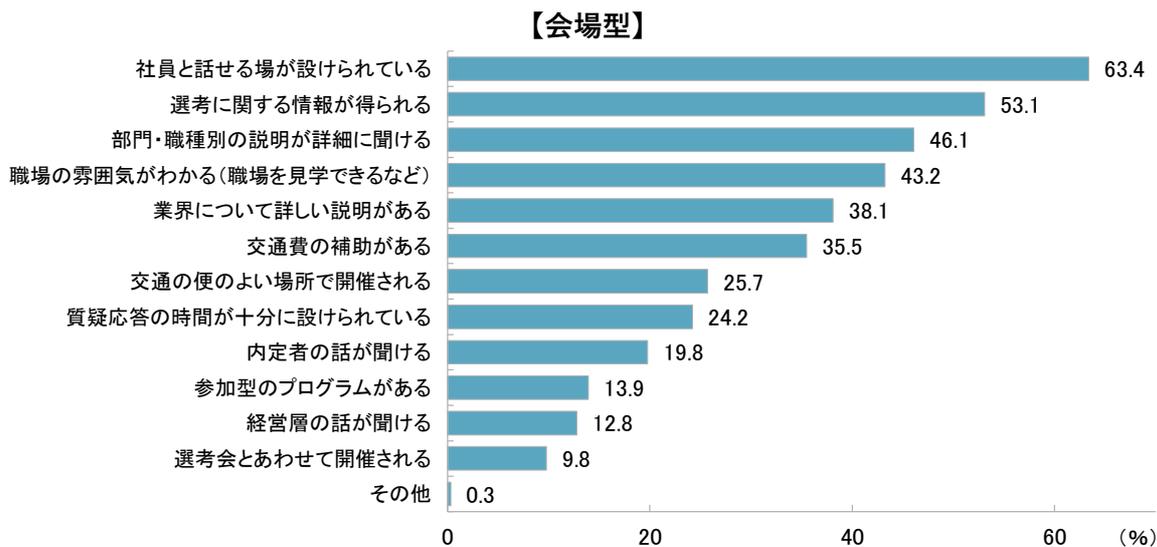
■企業研究を行う上で具体的に知りたいこと

- その会社の社会的な役割は何か、業務を通じてどのような社会貢献ができるか。 <文系男子>
- 業務内容に興味を持てることは前提として、特に働き方に関する部分は重視している。 <理系男子>
- 会社の雰囲気を知りたい。人間関係がどう構築されているかなど。また社員の人が満足感を持って仕事をしているか。 <文系女子>
- 転居を伴う転勤があるかどうかは必ず知りたい。また、業界内のポジションは気にする。 <文系男子>
- 住宅補助や長期休暇取得のしやすさといったワークライフバランスが考慮されているか、一緒に働く方の雰囲気（話しやすさなど）が知りたい。 <理系女子>

まだ接点を持ったことのない新しい企業の説明会に参加する場合に、どのようなものに参加したいかを形式別に尋ねた。

上位3項目は両形式とも共通しており、「社員と話せる場が設けられている」「選考に関する情報が得られる」「部門・職種別の説明が詳細に聞ける」の3つ。形式によらずこの3点が用意されているなら参加したいと考える学生が多いことがうかがえる。「社員と話せる場が設けられている」は会場型で6割以上が選んでおり(63.4%)、対面で社員と直接会話することでより多くの情報を得たいと考える学生が多いことがわかる。

<参加したいと思う会社説明会(形式別)>



■新たな企業の説明会に求めるもの

- 対面型では会社の雰囲気など感覚でしか知り得ないことを知ることにより重きを置いており、オンライン形式ではその前情報として会社の事業紹介や成長戦略などを知ることができればと考えている。 <理系男子>
- 選考に関する詳しい情報が得られたり、選考に有利になるのであれば参加したいと思う。 <文系女子>
- 事前に質問を募集して、説明会時に回答するような形式であるといい。 <文系男子>
- 情報収集は効率よく行いたいので、説明会はオンラインの方が良い。 <文系女子>
- 人事部の方だけでなく、各部門の実際に現場で一緒に働くであろう方々に登壇して欲しい。 <理系女子>

3. 解禁時の志望業界

解禁時点でのどのような業界を志望しているのかを確認したい。

志望業界を「決めている」学生は92.1%。2月調査では83.9%だったので、この1カ月で8.2ポイント増加した。

「決めている」と回答した学生に具体的な業界を尋ねると(40業界から5つまで選択)、最も多いのは「情報処理・ソフトウェア」(18.3%)で、次いで「情報・インターネットサービス」(16.7%)。IT業界が根強い人気を見せている。文理・男女問わず上位に挙がるが、とりわけ男子において順位が高い。

文理別に見ると、文系は「銀行」の順位が高く、男女ともに1位。文系女子の2位は「マスコミ」。理系はITとメーカーが上位を占める。

< 志望業界の決定状況 >

	(%)					
	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
志望業界を決めている	92.1	88.3	90.2	90.2	97.4	95.6
決めていない	7.9	11.7	9.8	9.8	2.6	4.4

< 志望業界 (上位 20 業界) >

		※5つまで選択 (%)								
	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子					
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ①	18.3	銀行	24.6	銀行	17.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	26.3	医薬品・医療関連・化粧品	35.1
2	情報・インターネットサービス ②	16.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	16.7	マスコミ	15.7	電子・電機	22.8	素材・化学	25.8
3	銀行 ③	16.2	情報・インターネットサービス	16.2	情報・インターネットサービス	15.5	情報・インターネットサービス	20.6	水産・食品	23.8
4	官公庁・団体 ⑪	12.5	官公庁・団体	15.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	15.2	素材・化学	19.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	19.2
5	電子・電機 ⑧	11.3	建設・住宅・不動産	13.3	官公庁・団体	14.1	自動車・輸送用機器	19.3	情報・インターネットサービス	14.6
6	水産・食品 ⑤	11.2	運輸・倉庫	12.3	商社(総合)	10.5	機械・プラントエンジニアリング	14.5	電子・電機	13.2
7	素材・化学 ⑥	10.5	調査・コンサルタント	11.8	商社(専門)	10.0	医薬品・医療関連・化粧品	12.3	官公庁・団体	12.6
8	建設・住宅・不動産 ④	10.2	商社(総合)	10.2	エンターテインメント	9.8	精密機器・医療用機器	9.6	建設・住宅・不動産	11.9
9	医薬品・医療関連・化粧品 ⑨	10.0	電子・電機	10.8	水産・食品	9.3	水産・食品	9.6	精密機器・医療用機器	8.6
10	調査・コンサルタント ⑦	9.5	保険	10.3	ホテル・旅行	9.3	通信関連	9.6	調査・コンサルタント	7.9
11	商社(総合) ⑮	9.2	水産・食品	9.4	保険	8.9	エネルギー	8.3	農業・林業・鉱業	7.3
12	エネルギー ⑩	8.2	エネルギー	8.9	調査・コンサルタント	8.6	建設・住宅・不動産	7.9	エネルギー	5.3
13	マスコミ ⑪	8.1	信用金庫・労働金庫・信用組合	8.1	教育	8.4	調査・コンサルタント	7.9	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	5.3
14	自動車・輸送用機器 ⑬	7.9	商社(専門)	7.9	エネルギー	7.9	鉄鋼・非鉄・金属製品	7.5	自動車・輸送用機器	4.6
15	運輸・倉庫 ⑭	7.4	鉄鋼・非鉄・金属製品	6.9	建設・住宅・不動産	8.0	銀行	6.6	銀行	6.6
16	商社(専門) ⑰	7.3	素材・化学	7.3	運輸・倉庫	6.8	商社(総合)	6.1	通信関連	4.0
17	保険 ⑳	7.2	通信関連	7.2	人材サービス・人材紹介・人材派遣	6.4	農業・林業・鉱業	6.1	機械・プラントエンジニアリング	4.0
18	通信関連 ⑰	6.3	農業・林業・鉱業	6.3	印刷・パッケージ	6.6	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	5.3	鉄鋼・非鉄・金属製品	5.3
19	機械・プラントエンジニアリング ⑱	5.9	人材サービス・人材紹介・人材派遣	5.9	信用金庫・労働金庫・信用組合	6.4	官公庁・団体	4.4	商社(総合)	3.3
20	精密機器・医療用機器 ⑮	5.8	マスコミ	5.8	自動車・輸送用機器	5.9	商社(専門)	5.9	マスコミ	3.3
	農業・林業・鉱業 ⑯	5.8	ホテル・旅行	5.8	ホテル・旅行	5.9				

※○の中の数字は前年同期調査の全体順位

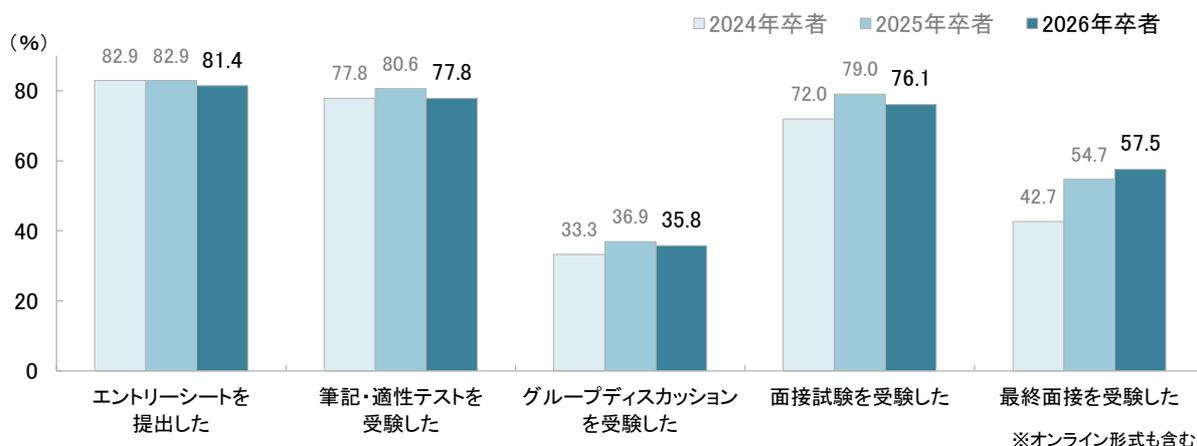
4. 選考試験の受験状況

選考試験（本選考）の受験状況を確認したい。

エントリーシート（ES）を提出した学生は全体の81.4%で、8割超が提出経験をもつ。筆記・適性テストを受験した学生は8割弱（77.8%）、面接受験者は7割強（76.1%）。受験経験者の割合に、前年調査との大きな変化は見られない。

受験社数に目を向けると、ES提出社数、面接社数ともに前年同期実績をやや下回る（ESは平均7.1社→6.9社。面接は4.6社→4.4社）。ただ、最終面接については減っておらず、最終選考に至るタイミングが早まったり、最終選考に進む割合が高まったりしている様子が見えがえる。

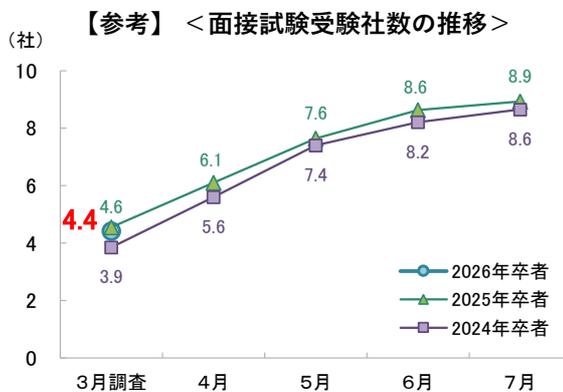
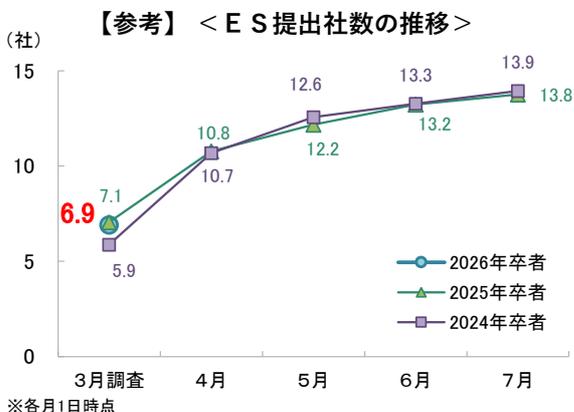
<選考試験の受験状況>



<選考試験の受験社数>

	(社)					
	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシート	6.9	7.1	7.3	7.0	6.2	6.6
筆記・適性テスト	5.5	5.4	6.2	5.3	5.1	5.0
グループディスカッション	2.4	2.4	2.7	2.3	1.8	2.0
面接試験	4.4	4.6	5.2	4.3	3.6	3.9
最終面接	1.6	1.5	1.8	1.4	1.8	1.6

※「最終面接」は、「面接試験」受験者を分母に算出。それ以外は、それぞれ受験者を分母に算出



5. 3月1日現在の内定状況

3月1日で内定を得ている学生は全体の47.7%。前回調査(39.9%、2月調査)からの1カ月間に7.8ポイント上昇し、就活解禁のタイミングで就活モニターの半数近くが内定を手に行っている。前年同期実績(43.2%)を4.5ポイント上回っており、現在の日程ルールが10年目を迎える中で、早期化が一層進んでいる様子が見て取れる。内定企業の7割(71.9%)がインターンシップ等のプログラムに参加していた企業。

内定率は文系より理系で高く、理系は男女とも6割近くに達している。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは22.4%。大半は内定を得ても就職活動を継続している。モニター学生全体を分母にとると就活終了者(就職先決定)の割合は10.7%で、前年同期(11.5%)をやや下回る(グラフは次ページに掲載)。内定率は上がったものの、決定者の割合は減っていることから、内定を持ちながら活動をする学生が増えていることがわかる。

<3月1日現在の内定状況> *「内定」には、内々定を含む

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり	47.7 (43.2)	41.3 (41.0)	44.9 (38.3)	59.0 (52.9)	58.2 (44.0)
内定なし	52.3 (56.8)	58.7 (59.0)	55.1 (61.7)	41.0 (47.1)	41.8 (56.0)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	19.4 (20.2)	15.1 (17.9)	31.9 (37.8)	31.5 (34.2)
	活動は終了したが複数内定保持	5.0 (3.0)	6.5 (4.2)	4.1 (1.2)	4.3 (4.7)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.9 (0.0)	2.2 (0.0)	0.5 (0.0)	0.0 (0.0)
	就職活動継続	71.7 (70.5)	72.0 (75.6)	80.4 (81.0)	63.8 (57.4)

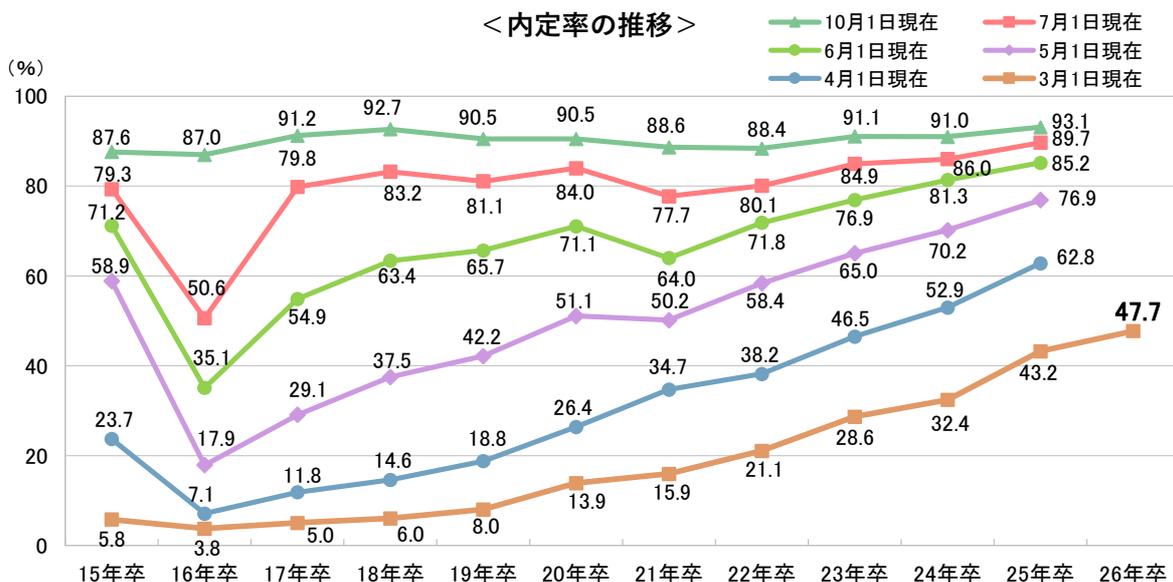
(%)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均	1.7 (1.7)	1.7 (1.7)	1.7 (1.7)	1.9 (1.8)	1.6 (1.9)

(社)

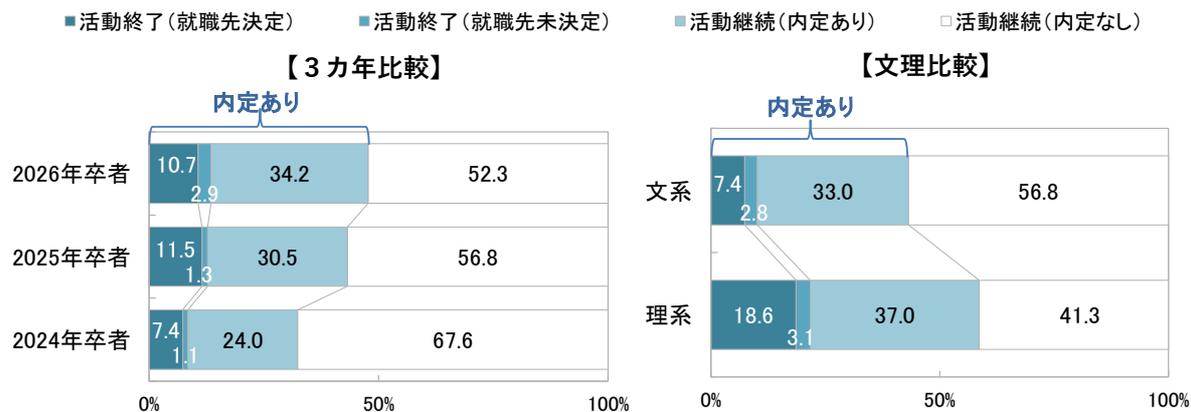
※ ()内は前年(3月1日現在)の数値

<内定率の推移>



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~26卒は6月

<活動状況の分布>



内定を得ている学生に内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた(全40業界。複数回答あり)。先に確認した志望業界1位の「情報処理・ソフトウェア」が、内定業界でも1位。文理問わず多くの学生が志望し、実際に多くの内定が出ている様子が見て取れる。2位は「調査・コンサルタント」、3位は「建設・住宅・不動産」。

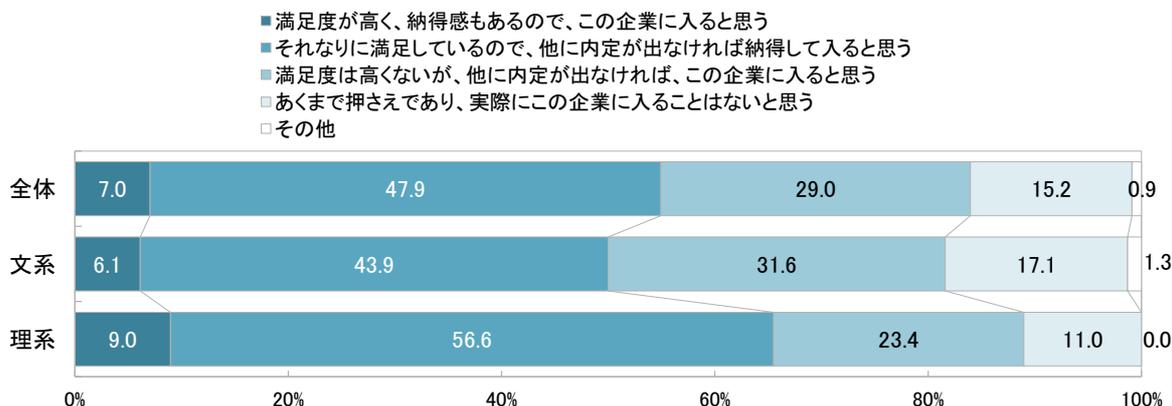
<内定を得た業界(上位5業界)>

		全体		文系		理系	
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ①	33.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	32.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	34.8	
2	調査・コンサルタント ②	16.4	調査・コンサルタント	17.8	自動車・輸送用機器	14.8	
3	建設・住宅・不動産 ④	12.0	建設・住宅・不動産	13.3	調査・コンサルタント	13.9	
4	人材サービス・人材紹介・人材派遣 ③	9.4	専門店	11.6	電子・電機	12.2	
5	専門店 ⑩	8.2	人材サービス・人材紹介・人材派遣	9.6	素材・化学	11.3	

※○の中の数字は前年同期調査の全体順位

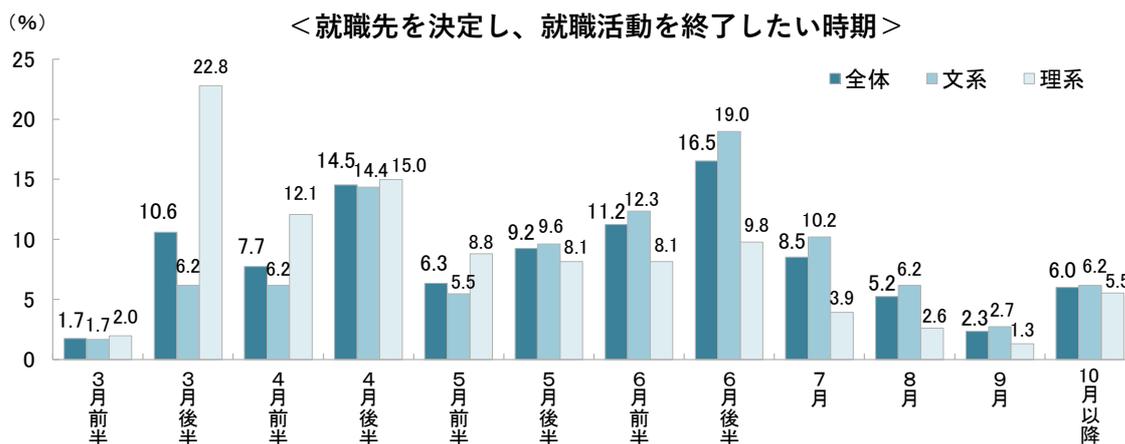
内定を持ちながら就職活動をしている学生(全体の34.2%)に、内定企業をどう位置づけているのかを尋ねた。「満足度が高く、納得感もあるので、この企業に入ると思う」と、ほぼ入社を決めているのは1割未満(7.0%)。「それなりに満足しているので、他に内定が出なければ納得して入ると思う」という回答が半数近くを占める(47.9%)。入社に前向きながらも、本命企業の結果次第という学生が多い。

<内定を得ている企業の位置づけ>



6. 就職活動を終了したい時期

内定保持者を含め就職活動を継続している学生(全体の86.5%)に、就職先を決定して就職活動を終了したい時期を尋ねた。最も多いのは「6月後半」(16.5%)。ここまでかなり早いペースで進行しているものの、選考解禁後の6月を終了時期の目安にしている学生が少なくない。ただし、文系は「6月後半」(19.0%)、「6月前半」(12.3%)と6月が中心であるのに対し、理系は「3月後半」(22.8%)が最も多く、文系に比べ早い時期の終了を考えている学生が圧倒的に多い。



○3月より就活解禁し、エントリーシートの提出が期限的にも応募社数的にもタイトなのが、今現状として辛いところですが、ここからが正念場なので、後悔しないよう頑張り抜きたい。 <文系女子>

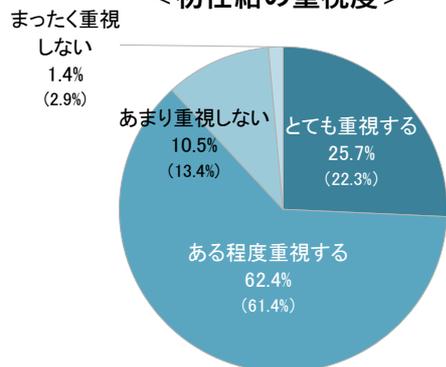
○早く終わらせて学業に専念したい。 <理系男子>

7. 希望する初任給額

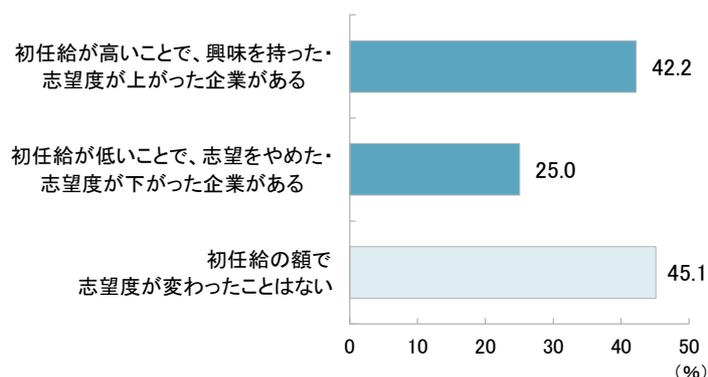
近年、採用難や物価上昇を背景に初任給の引き上げを行う企業の増加傾向が続いている。就職先企業選びにおいて、初任給を「とても重視する」学生は25.7%。「ある程度重視する」(62.4%)と合わせると9割近くに上り(計88.1%)、大半の学生が重視している。

さらに、初任給の額によってその企業への関心や志望度が変わった経験も尋ねた。「初任給が高いことで、興味を持った・志望度が上がった企業がある」という学生は4割超(42.2%)。反対に「初任給が低いことで、志望をやめた・志望度が下がった企業がある」人は25.0%。初任給によって志望度や関心が変わった経験を持つ学生は半数を超える(54.9%)。

＜初任給の重視度＞



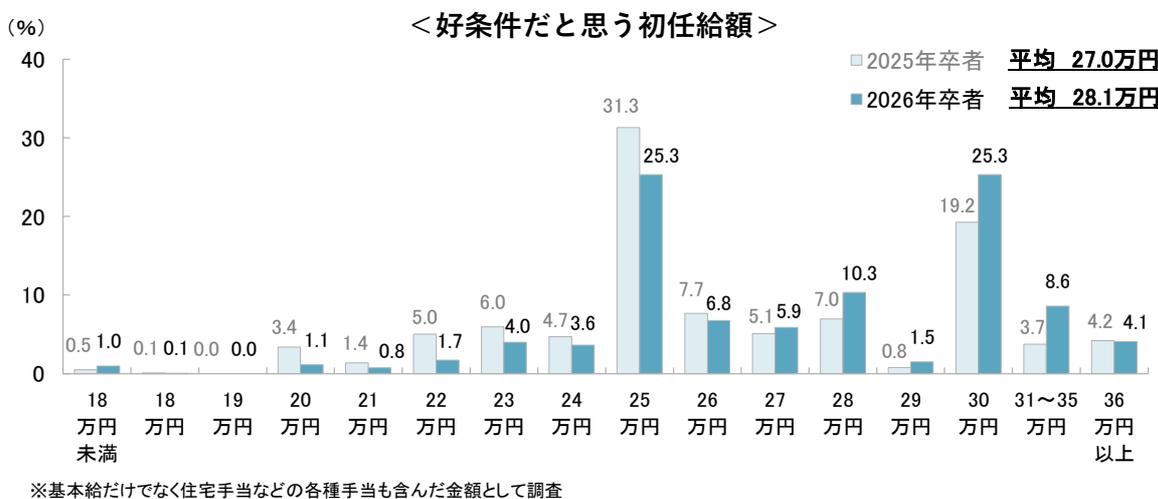
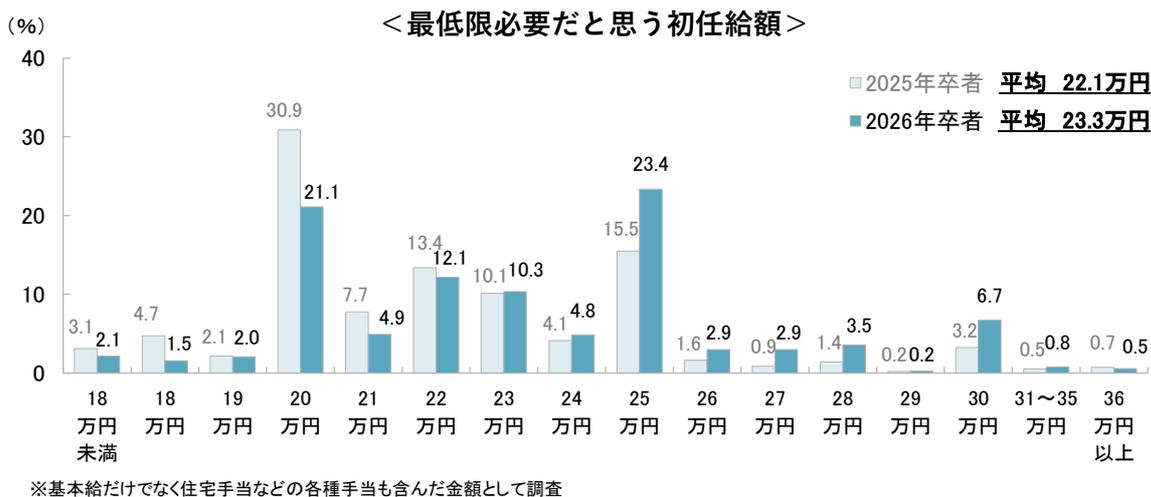
＜初任給によって志望度が変わった経験＞



* ()内は前年同期調査の数値

続けて、この金額より低いと応募を見送るという「最低限必要だと思う額」と、「好条件だと思う額」に分けて、各種手当を含む月額を尋ねた。「最低限必要だと思う額」の平均は23.3万円で、前年同期調査(22.1万円)より1万円以上上がった。分布をみると、前年調査で最多だった20万円との回答が大幅に減少し(30.9%→21.1%)、今年は25万円を選んだ学生が最も多くなった(23.4%)。

「好条件だと思う額」は平均28.1万円で、こちらも前年調査(27万円)より1万円以上増加。前年調査では25万円という回答が圧倒的に多かったが(31.3%)、今年は30万円が増加し、25万円と30万円が最多回答となった(ともに25.3%)。



■初任給額で志望度が変わった経験

- 選考の途中で初任給引き上げの連絡が来て、志望度が上がったことがある。 <理系男子>
- 知らなかった企業でも、初任給33万円で興味を持った。 <文系女子>
- 転勤なしコースの初任給が上がり、それなら入社してもいいかもと感じた。 <文系女子>
- IT系はあまり見ていなかったが、初任給が高い企業が多く、興味を持った。 <理系女子>
- 大企業でも、想像よりも初任給が低かったため志望度がやや下がった企業がある。一方、中小企業だが、初任給が高かったことで志望度が向上した企業もある。 <文系男子>
- 事業内容に興味がある会社でも、初任給が低いと社員を大切にしていない企業なのかなと感じ志望度が下がった。 <理系男子>
- 地元を離れる予定のため、住宅手当がないことで志望をやめた企業がある。 <文系女子>